

2 学校および社会との連携

【概要】

広報普及事業は、歴博の研究活動や、それを基礎とした博物館活動を広く館外に紹介し、また利用者を支援して、日本の歴史と文化の幅広い理解を図ることを目的としている。

そのために開館当初からさまざまな事業を行ってきたが、近年は特に学校との連携に力をそそぎ、学校教員が積極的に博物館を活用できるよう支援体制を強化している。小・中・高等学校の教員を対象として行っている「博学連携研究員会議」は学校との連携を目的とした事業の中核となるものであり、2025年度より2カ年を1期とする第9期が開始した。そのほか、大学の留学生教育にも関わることで、国際的な活動も展開している。

2008年にスタートした常時開設の体験コーナー「寺子屋「れきはく」」で活動する登録ボランティアは、資質向上を目的とした研修や、次年度以降に活動する新規登録者の募集の実施など、順調に運営している。2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充したほか、これまでのプログラムの評価・改善を試みている。

また、社会との連携についても、産業界や地域との連携を進めている。

これまでの活用状況を検証しながら、歴博と学校および社会とのよりよい連携の方向性の模索が続けることが今後も必要である。

広報連携センター長 鈴木 卓治

【ファミリー向けプログラム】

れきはくこどもワークシート

小学生・中学生を対象とした「れきはくこどもワークシート」を作成しており、小学校・中学校団体等の見学や事後学習を効果的に行えるように作成した「歴史と話そう」や、展示資料の観察を主眼とした「さがしてみよう」(小学校1～2年生対象)、「じっくりみよう」(小学校3年生以上対象)がある。

れきはくをかこうよ

「れきはくをかこうよ」は、小学生から中学生を対象としたスケッチ会として、2001年度より開催している。事前予約制で総合展示室を会場とし、対象となる展示室の好きな展示物を選んで写生したあとに、展示物の解説や作品へのコメントを歴博の教員から受けることで、より展示物への理解と興味を高めようという試みである。完成した作品は歴博ホームページの「こどもれきはく」にて、画像掲載している。

開催日時：2025年8月3日（日）13：00～16：00

会場（担当教員）：第4展示室（小池・関沢）

参加人数：20名（保護者等除く）

れきはくをつかった自由研究相談室

夏休みの期間中に事前予約制でガイダンスルームにて、小学校・中学校および高等学校の児童・生徒を対象に、学校対応職員および小・中・高等学校の教員（博学連携研究員）を相談員として、夏休みの自由研究課題に関する相談を実施した。歴博の展示資料に関連する図書の紹介や展示資料の見方などを助言することにより、自ら課題を調べ、作品をつくりあげるための支援を目的とした取組である。また、自由研究相談室の参加者から出品を募り、作品の展覧会も実施した。

開催日：2025年7月26日（土）、27日（日）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高校	合計
7/26(土)	1	3	3	5	4	5	0	1	0	0	22
7/27(日)	1	6	2	6	3	4	1	0	0	0	23
合計	2	9	5	11	7	9	1	1	0	0	45

れきはくをつかった自由研究相談室作品展

開催期間：2025年7月2日（水）～8月31日（日）

開催場所：第2休憩コーナー（第2展示室・第3展示室間）

出品点数：5点

[小学校・中学校・高等学校]

来館学校の対応・学校訪問

小学校・中学校・特別支援学校および高等学校等の団体見学時に、展示室を見学する際のアドバイスとして、学校対応職員によるガイダンスやプログラムを学校側のニーズに応じて行っている。「ガイダンス」は250名程度までの人数を対象とし、「縄文時代のくらし」や「江戸時代における江戸のくらし」などのテーマを用意している。昨年度に引き続いて、2025年度も午前2校・午後2校の1日最大4校の受入対応を基本とした。その結果、小学校153校、中学校24校、高等学校17校、特別支援学校5校を受け入れた。

2024年度より再開した中学校の職場体験や高等学校のインターンシップなどは、2025年度は、延べ12校を受け入れ、中学生13名、高校生17名を対応した。

千葉県立千葉盲学校からの依頼を受けて、触れる貸出用教材を用いた学校対応職員による訪問授業を実施した。

非来館型の取組

学校の授業等で活用できる教材を無料（送料は実費負担）で貸し出している。2025年度は、28の学校等から依頼を受け、延べ42個の教材を貸し出した。

2021年度から実施する「オンラインガイダンス」については、コロナ禍の終息も相まって各学校が来館にシフトしたこともあり2025年度の実施はなかった。なお、学校の教員や児童生徒が授業等に活用できる「教育用動画コンテンツ」は歴博サイトにおいて引き続き提供している。

博学連携研究員会議

学校の教員が「研究員」として、博物館と学校との連携の仕方を考え、授業として実践していくことを目的として実施している。2年間で1期として活動しており、2024年度まで8期行われてきた。2025年度は第9期の1年目であり、下記のとおり会議を開催した。

2025年7月13日（日）第1回会議 ガイダンスルーム

・第4室、第6室の解説

2025年8月24日（日）第2回会議 ガイダンスルーム

・第1室、くらしの植物苑の解説

2025年12月21日（日）第3回会議 ガイダンスルーム

・第2室、第3室の解説

千葉県立佐倉高等学校SSHへの協力

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校である千葉県立佐倉高等学校の実施する講座の一つとして、歴博教員が生徒20名を対象に講義や当館の様子を紹介した。

「科学分析で過去を探る」

2025年8月28日（木）歴博（年代実験室見学・バックヤード見学）

担当教員：坂本・箱崎

たいけんれきはく

2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充している。

2025年度は、これまでの企画展示に関連したイベントである「自分だけのオリジナル色見本をつくってみよう」「おとなの塗り絵―縹綢彩色を楽しむ」「れきはく漫録をつくろう」を継続実施し、「武将印スタンプラリー」も設定曜日を替えながら、継続実施した。

[大学・大学院]

大学・大学院への対応

大学・大学院に講義やオリエンテーション、研修などで歴博の施設や展示・収蔵資料を活用してもらうため、利用方法や利用手続きを紹介する『大学のための歴博利用ガイドー歴博でアクティブ・ラーニングー』を作成・配布している。また、展示の見学だけでなく、大学からの希望を受けて、歴博の教職員による展示やバックヤードの解説・説明を行っており、2025年度は42件（延べ人数1,484名）の大学を受け入れた。

千葉大学留学生プログラム

千葉大学国際教育センターと国立歴史民俗博物館は、2009年10月から連携して、歴博の展示を教育および授業の素材として活用し、留学生の視点から「海外から訪問した人たちが日本の歴史や文化の展示をどのように見るのか、どのような点に注目してみたら母国の人たちがより分かりやすいのかを考える」というテーマのもとに、千葉大学の短期留学生が母国語でワークシートを製作する授業を開講している。2012年より、両機関の連携事業として正式に協定を締結して活動を行っており、これまで中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、ドイツ、オーストラリア、ポーランド、ロシア、トルコからの60名以上の留学生が各国語と日本語の2か国語でワークシートを作成した。2025年は、中国から4名、韓国から1名、トルコから1名の短期留学生が受講者となり、下記のとおり授業を実施した。

2025年10月10日（金）第1回 千葉大学

・歴博についてのガイダンス

2025年11月14日（金）第2回 千葉大学

・過去ワークシートをとおしての議論①

2025年12月12日（金）第3回 千葉大学

・過去ワークシートをとおしての議論②

2026年1月24日（土）第4回 歴博

・第1室、第2室、第3室の展示解説

2026年1月31日（土）第5回 歴博

・第4室、第6室の展示解説

完成したワークシートはプロジェクト紹介パネルとあわせて総合展示休憩コーナーに配架し、来館者が閲覧できるようにするとともに、歴博ホームページに掲載している。留学生が展示を通じて日本の歴史と民俗への理解を深めることは、歴博が推進する国際化という点でも重要である。また、留学生の視点を通じて展示の問題点を知ること、外国人来館者への利便性を今後より充実させていくうえで基礎となるものであり、一定の成果を上げつつある。

[社会連携]

○産業界との連携

2020年より成田空港活用協議会に参画し、日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上および近隣エリアへの誘客を目的とした特別展示「光る江戸図で感じる日本」を実施している。

また、佐倉市との協定等にもとづき、歴博近隣の河川氾濫に際し市内のバス会社等の車両を高台にある歴博の大型駐車場に避難させることで地域交通の足となるバス等を浸水被害から守る事業に協力し、2022年からは佐倉市・バス会社と車両避難訓練を実施している。

○地域との連携

2024年度に締結した千葉県との包括連携協定に基づくワーキング・グループの内規を両機関の協議により制定した。広報連携事業として、4月に県民だよりに歴博の展示紹介記事を掲載し、広く県民に周知をはかった。また、企画展示「時代を映す錦絵ー浮世絵師が描いた幕末・明治ー」の広報を目的に移動型展示ユニットを活用して千葉県立中央博物館と千葉県立現代産業科学館において巡回展を実施した。6月には千葉県民の日の中央行事（ちばみんフェス2025、会場：香取市みんなの賑わい交流拠点コンパス）に出展し、縄文土器パズルや火縄銃（複製品）、

錦絵スタンプを用いた体験プログラムを実施し、約500人の来場者があった。8月には千葉県立中央博物館と共催で「船がもたらしたものを探そう」をテーマに両博物館の展示資料を対象としたスタンプラリーを実施した。両方の博物館で参加する来場者もあり、特に歴博から千葉県立中央博物館への誘引が多く、地域社会の活性化に貢献した。このほかにも千葉県の広報媒体を活用して、ポスター展示（千葉そごう、イオン津田沼）やラジオ（bayfm）、テレビ（千葉テレビ）、新聞（千葉日報）、千葉県広報Xによる広報を実施した。

【千葉県との主な広報連携事業】

期間	場所	内容
2025年3月26日～4月15日 2025年4月16日～5月8日	・千葉県立中央博物館 ・千葉県立現代産業科学館	移動型展示ユニット「幕末世相風刺と百鬼夜行」による企画展示の広報展示
2025年6月15日	香取市みんなの賑わい交流拠点コンパス	千葉県民の日の中央行事（ちばみんフェス2025）への出展
2025年8月1日～9月28日	・国立歴史民俗博物館 ・千葉県立中央博物館	スタンプラリー「船がもたらしたものを探そう」
2025年5月26日～6月2日 2025年6月11日～6月16日 2025年9月15日～9月22日	・千葉そごう ・イオン津田沼 ・千葉そごう	総合展示紹介パネル及び企画展示等のポスター展示

佐倉市との連携・協力に関する協定に基づき、7月から佐倉市役所のエントランスギャラリーで歴博の紹介展示を設置し、来庁した佐倉市民に周知をはかった。10月の佐倉青年会議所50周年記念事業「城下町佐倉に灯す未来への光」（会場：大手門跡広場）に出展し、錦絵スタンプや歴博紹介展示パネルを用いて来場者への広報活動を実施した。1月には佐倉市立美術館との入館料の相互割引を実施、2月には佐倉市ふるさと応援納税で得られるクーポンを歴博入館券の購入に使えるようにしたりするなど、佐倉市とともに地域活性化の推進に寄与した。このほかにも佐倉市が後援・参加するイベント（にわのわアート&クラフトフェア・チバ、JR東日本駅からハイキング）の実施に協力した。

【佐倉市との主な広報連携事業】

期間	内容	場所
2025年6月7日～6月8日	佐倉城址公園	にわのわアート&クラフトフェア・チバでの広報及び来場者への団体入館料の適用。
2025年7月24日～展示中	佐倉市役所市民ギャラリー	総合展示紹介パネル、企画展示・特集展示・くらしの植物苑特別企画のポスター及びミュージアムショップグッズ等の展示
2025年10月25日	大手門跡広場	佐倉青年会議所50周年記念事業「城下町佐倉に灯す未来への光」への出展
2026年1月24日～3月29日	・国立歴史民俗博物館 ・佐倉市立美術館	国立歴史民俗博物館と佐倉市立美術館との入館料の相互割引
2026年1月10日～3月8日	JR佐倉駅～国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	佐倉市が実施したJR東日本のイベント「駅からハイキング」への特典協力による広報

[登録ボランティア]

2025年度の登録者数は88名（2026年3月31日現在）であり、6月1日から翌年5月31日までを登録年度として、第3展示室の寺子屋「れきはく」にて活動した。前年度に引き続き、くずし字を体験できる手習い帖のほか、江戸時代の双六や江戸時代の計算道具の算木体験、江戸図屏風ワークシートの配布などを実施した。増加する外国人来館者への対応として英語版算木フレーズ集を作成したほか、「おてもと」「うなぎ」など、現在でも用いられているくずし字の例を資料として整理し、登録ボランティアへ共有した。さらに、濁点・半濁点や国名表記について、ボランティア間で理解のばらつきが見られたことから、『寺子屋「れきはく」かわら版』を通じて共通理解の形成に努めた。

2026年度に活動する登録ボランティアについて新規募集を実施し、選考の結果14名が新たに活動することとなった。

登録ボランティア活動延人数および体験者延人数

	活動日数	活動延人数	体験者延人数
2025/4	26	129	1,292
2025/5	26	149	1,637
2025/6	24	179	1,468
2025/7	26	190	1,895
2025/8	27	196	2,727
2025/9	24	161	1,350
2025/10	26	183	1,658
2025/11	26	172	1,594
2025/12	21	159	1,409
2026/1	22	157	1,346
2026/2	23	159	1,563
2026/3	25	163	1,796
合計	296	1,997	19,735

登録ボランティアの資質向上を目的に、対面による研修を実施した。新規登録ボランティアを対象とした活動前の研修の他、企画展示の展示解説、算木の使い方や双六の遊び方を学ぶ実務研修も行った。さらに、研修終了後に懇親会を実施することで、ボランティア同士の親睦を深めた。

登録ボランティア活動委員会委員が中心となって編集する『寺子屋「れきはく」かわら版』を概ね隔月で発行し、活動委員会や研修の内容を中心に情報発信した。

- ・登録ボランティア活動委員会（2025年4月～2026年3月）8回開催
- ・登録ボランティア総会（2025年6月23日）参加49名
- ・登録ボランティア研修（2025年4月～2026年3月）

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	2025年4月14日	第3展示室「江戸図屏風」の解説	工藤 航平	55名
2	2025年5月17日	新規登録ボランティア研修	登録ボランティア活動委員会委員※	7名
3	2025年5月19日			11名
4	2025年9月1日	実務研修「近世の紙の解説と和本製作」	天野 真志	48名
5	2025年11月17日	企画展示「野村正治郎とジャポニスムの時代―着物を世界に広げた人物」展示解説	澤田 和人	40名
6	2026年1月19日	実務研修「双六」・懇親会	登録ボランティア活動委員会委員	40名

※登録ボランティア活動委員会は、ボランティア担当の教職員と登録ボランティアの代表で構成されている。

[博物館・資料館]

歴史民俗資料館等専門職員研修会

歴史民俗資料館等の活動の充実に資するため、全国の歴史民俗資料館・博物館等の専門職員に対し、歴史資料・考古資料・民俗資料等の調査・収集・保存および公開に関する必要な専門知識と技能の研修を文化庁と共催で行っている。講師は文化庁職員と歴博教職員が主に担当し、参加者は全国から都道府県単位で募集されている。2年を1期として各年度5日間の日程となっており、2025年度は昨年度と同じ受講者による2年目の研修を以下のプログラムで実施した。

会期：2025年11月10日（月）～14日（金）（5日間）参加者数：50名

プログラム：

2025年11月10日（月）	- 資料の保存管理①収集資料のデータ化と管理 島津 美子（情報資料研究系）、太田 歩（博物館事業課） - 企画展示「野村正治郎とジャポニスムの時代―着物を世界に広げた人物」展示解説 澤田 和人（情報資料研究系） - 資料の保存管理② コンピューターの活用 橋本 雄太（研究部）後藤 真（研究部）
2025年11月11日（火）	- 分野別演習（午前の部） A美術工芸 鷺頭 桂（情報資料研究系） B歴史 工藤 航平（歴史研究系） - 分野別演習（午後の部） A考古 中村 耕作（考古研究系） B民俗 松田 睦彦（民俗研究系） - 資料の保存管理③ 資料の修理 大崎綾子（女子美術大学デザイン・工芸学科）
2025年11月12日（水）	調査研究の最近の動向※テーマ別演習 ①歴史資料のデジタル化と災害対策 後藤 真（研究部）、橋本 雄太（研究部）、天野 真志（研究部） ②教育プログラムの作成と活用 村木 二郎（考古研究系） ③博物館DXの実践～教育と展示を例に～ 鈴木 卓治（情報資料研究系）、大井 将生（同志社大学文化情報学科）
2025年11月13日（木）	施設見学「千葉県房総のむら」
2025年11月14日（金）	- 資料の保存管理④保存科学概論 小瀬戸恵美（情報資料研究系） - 資料の保存管理⑤収集資料の保存環境 小瀬戸恵美（情報資料研究系） - 課題討論（3） 天野 真志（研究部）、箱崎 真隆（情報資料研究系）、文化庁文化財第一課 前田俊一郎（主任文化財調査官）、藤原 洋（文化財調査官）、加藤 基樹（文化財調査官）、玄蕃 充子（文化財調査官） - レポート作成

歴史民俗資料館等専門職員研修会は、1983年度に始まり、研修会開始から40年を超え、カリキュラム編成が現在の情勢に必ずしも合わなくなっていること、博物館事業との両立や、歴博教職員による講義担当が困難さを増しつつあることなどから、研修科目ならびに研修会の実施のあり方を見直すこととなった。具体的には、月曜から金曜までの5日間を2か年実施（合計10日間）することは維持しつつも、受講者の負担軽減のため初日は午前開始から午後開始に、最終日は午後終了から午前終了とする実施形態とし、講義時間数を短縮、それに伴い、学芸員資格取得の際にすでに受講している授業を削減し、現状に沿った科目の追加や演習内容の見直しなど、2025年7月より文化庁と調整し2026年度からの実施を目指している。